

授業科目 音韻障害Ⅰ（機能）

【担当教員名】 磯野信策	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【＜一般目標：G I O＞】

機能性構音障害の症状と発症のメカニズムを知り、検査法、診断法および必要な情報収集の仕方について学び、個々の症例に合った適切な訓練・指導計画を立案し実行するための具体的な方法を理解する。

【＜行動目標：S B O＞】

1. 機能性構音障害に関する基礎知識を修得する。
2. 構音検査法および診断法を修得する。
3. 訓練・指導計画を立案できる。
4. 訓練・指導の実際を理解する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題
1	構音障害、および、機能性構音障害とは何か 小児の構音発達 発症原因	1	講義
2	構音検査法 構音検査法の目的、種類、方法を習得する。	2	講義と演習
3	評価に必要な情報 医学、発達障害学、聴覚障害学等の関連領域からの情報収集、ならびに、 関連諸機関からの情報収集の方法を知る。	2	講義
4	診断法 構音障害の診断とは何か、治療の必要性について、発達という観点 から考察する。	2, 3	講義
5	治療計画の立案 治療法の選択と治療予後の見通しの立て方を学ぶ。	3	講義
6	治療法の実際(1) 聴覚弁別訓練法とその実際を学ぶ。	4	講義と演習
7	治療法の実際(2) 構音誘導法とその実際を学ぶ。	4	講義と演習

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書				
参考書	適宜紹介する	岡崎恵子他編	学苑社	1999年・4410円
その他の資料	随時配布する。			
【評価方法】 定期試験により評価する。	【履修上の留意点】 発達障害学、聴覚障害学等関連領域の知識が必要とされる。			